

平成19年度 園芸特産業関係功労者表彰受賞者功績概要

(敬称略)

木下 肇(佐久市)

昭和29年に就農以来、自らもも栽培を行うとともに、昭和40年に旧平根農協果樹部会役員就任から現在まで長きにわたり地域のリーダーとして、「平尾桃」の産地化、地域の果樹産業の発展に活躍された。特に、もも団地内の定置配管式の共同防除施設での効果的な防除体制の整備や優良品種の導入による統一した品種構成の実現、光センサー選果機の導入により品質重視のももの生産出荷に尽力された。また、上信越自動車道山麓対策委員長として、新たな農地への新植苗木の助成策などにより、もも産地の存続に大きく貢献された。

間島 重隆(上田市)

昭和29年に旧泉田農協に就職され、昭和40年代に上田市西部地区への花きの導入による産地化を推進し、特に、オリジナル品種によりトルコギキョウ、スターチス、グラジオラスなど「上田の花」のブランド化に尽力された。また、花きの共選共販体制の確立、規格の統一、予冷库及び花き共同育苗センターの設立等により栽培農家の拡大に貢献された。平成6年に信州うえだ農協が発足。常勤役員として生産部会の統合に尽力され、平成12年に上田市農産物総合集出荷施設(農産物流通センター)を稼働させるなど、園芸産地の育成と地域農業の発展に大きく貢献された。

平出 吉長(諏訪郡原村)

昭和29年に就農され、数年後に地域にはまだあまり導入されていなかったセルリー栽培に挑戦し、地域の先駆者として栽培技術の確立と普及に取り組まれた。特に、温湯システムの導入により育苗技術を確立するとともに、灌水量や施肥量のバランスを解明するほか、プラグ育苗の導入やブームスプレー等的大型機械の導入など省力栽培技術の普及に尽力され、夏期の市場をほぼ独占するまでになった原村のセルリー産地の基礎を作られた。また、区画整理事業の役員として、セルリー栽培に適した区画整理や畑灌施設の設置に尽力されセルリー産地の育成に大きく貢献された。

J A 須高りんご部会高山支部（上高井郡高山村）

高山村内の有機性資源の堆肥を村内農地に還元することにより、昭和 57 年以来高山村が進めている環境保全型農業を支えてきた。特に、平成 3 年に性フェロモン剤の広域利用に取り組むとともに、フェロモントラップ調査に基づき、適期に村内同一の防除を行うことにより減農薬栽培を実現された。また、平成 17 年に支部全員の 252 名がエコファーマーを取得するなど、安全性の高いりんご産地の育成に大きく貢献され、高山村の環境保全型農業の取り組みの牽引的役割を果たしてきた。